東海・北陸ブロック

１．プログラム詳細

【日程　１日目】

13：00～13：30	(30)	受付
13：30～13：45	(15)	開会 ・主催者あいさつ：内閣府政策統括官（共生社会政策担当） 付交通安全対策啓発担当　調査官　金子　昇一 ・来賓あいさつ：岐阜県環境生活部　次長　鍋島　寿
13：45～14：45	(60)	講演 「自転車を安全利用するための指導法」 一般財団法人　日本自転車普及協会 自転車文化センター　学芸員　谷田貝　一男
14：45～14：55	(10)	休憩
14：55～16：35	(100)	活動事例発表 ①「関市交通安全女性連絡協議会の活動報告」 岐阜県　関市交通安全女性連絡協議会　会長　古田　伸子 ②「指導員としての活動及び事例報告」 富山県交通指導員連絡協議会　会長　伊井　好作 ③「ただいま！元気な声を聞きたくて・・・」 石川県　金沢市交通安全母の会　副会長 石川県交通安全母の会　書記　　中村　恵子 ④「交通安全は家庭から」 福井県　鯖江市交通安全母の会　理事　鈴木　順子 ⑤「『静岡県交通安全母の会連合会ブロック別研修会』」 について」静岡県　静岡県交通安全母の会連合会 会長　大川　美津江 ⑥「『愛知県交通安全母の会』の交通安全啓発活動について」 愛知県交通安全母の会　会長　日光　直子 ⑦「交通安全メッセージ運動等の取組」 三重県交通安全母の会連合会　会長　長野　あけみ
16：35～16：55	(20)	グループ別交流（自己紹介及び役割分担検討）
16：55～17：00	(5)	閉会及び連絡事項

【日程　２日目】

8：30～ 9：00	(15)	受付
9：00～10：00	(60)	講演 「高齢者に対する交通安全指導の基本」 千葉大学　名誉教授　鈴木　春男
10：00～10：10	(10)	休憩
10：10～11：10	(60)	グループ討議（４テーマ、４グループ） １班：子供に対する交通安全活動における課題と対応 ２班：高齢者に対する交通安全活動における課題と対応 ３班：自転車の交通安全活動における課題と対応 ４班：交通ボランティア活動の運営における課題と対応
11：10～11：40	(30)	グループ討議結果発表・全体討議及び意見交換
11：40～12：00	(20)	講評（コーディネーター　鈴木春男先生）
12：00		閉会

２．講義等の記録

【１日目】

■講演

自転車を安全利用するための指導法

(一財)日本自転車普及協会

自転車文化センター学芸員　谷田貝　一男

272 ページの九州ブロックでの講演録参照。

■活動事例発表

関市交通安全女性連絡協議会の活動報告

岐阜県関市交通安全女性連絡協議会　会長　古田　伸子

簡単ですが、関市について紹介させていただきます。

関市は平成 17 年２月に旧武儀郡５町村と合併し､今年２月に合併 10 周年を迎えました。市の総面積は 476.33 平方キロメートル、そのうち森林の面積が 80%を占めております。また、平成 22 年の国勢調査になりますが、日本の人口の中心は関市内にあると言われ、関市は日本の真ん中に位置していると言えます。

関市内には清流として名高い長良川や、その支流である板取川、武儀川、津保川が流れています。また、日本刀鍛錬、小瀬鵜飼など、流域に住む人々の様々な伝統文化が財産として守り続けられています。この豊かな自然、積み重ねられた歴史、育まれてきた文化など、貴重な地域資源を背景に地場産業として刃物産業が栄え、刃物のまちとして発展してきました。

それでは、関市交通安全女性連絡協議会の活動報告に入らせていただきます。

まず、組織概要について説明させていただきます。協議会の会員には、各小学校からの推薦に基づき、委嘱された会員と市から直接委嘱された会員の２種類がございます。小学校から推薦される会員は、学校の規模等により人数が異なります。各校２名から 12 名で合計 132 名、そして、市から直接委嘱される会員は 13 名おり、小学校からの推薦会員と合わせて総勢 145 名で活動しております。

関市交通安全女性連絡協議会は、交通安全思想を普及徹底し、正しい交通ルールとマナーの実践による交通事故防止を目的としています。任務といたしまして、各校区内における危険箇所の点検、交通安全街頭指導など、交通事故防止対策の推進と、日常生活の中で道路交通上危険な状態にある子供や高齢者に対し、安全の確保と指導に努めています。

主な活動といたしまして、毎月１日、15 日や四期の交通安全運動期間における通学路での街頭啓発指導、交通安全街頭指導所（交通関所）、啓発グッズの作成、関シティマラソンにおける交通整理、小学校への分団旗の贈呈、自転車安全大会出場校への支援、高齢者交通安全大学校への協力です。

それでは、それぞれの活動について説明させていただきます。

まず、各小学校の通学路において、毎月１日、15 日や四期の交通安全運動期間等に街頭啓発指導をしておりますが、昨年度初めて警察、交通安全協会、市と連携し、実施しました。今まで行っていた街頭啓発活動は対象が小学生中心でしたが、この活動は対象が高齢者や中学生、高校生中心となる啓発活動として実施いたしました。

交通安全街頭指導所（交通関所）、こちらの活動は、市と警察、交通安全協会が中心となり、交通安全女性や農協、自動車学校、ＮＥＸＣＯ中日本とが協力することにより行われている活動になります。活動の内容としましては、市内にある公共施設の駐車場へ道路を走っている車両を引き入れ、運転者や同乗者に交通安全の啓発グッズやチラシを配布しながら、シートベルトの着用や交通安全を呼び掛ける活動になります。

啓発グッズの作成、先程出て来ました交通関所で配布するグッズの作成です。岐阜県交通安全女性連絡協議会が開催している製作方法を学ぶ講習会に参加いたします。そこで作り方を教えていただきました。配布するグッズを作成し、毎回 20 名から 30 名の交通安全女性の会員が集まり、交通関所で配布するグッズを作成しました。関市交通安全女性が独自に製作しています関市のゆるキャラであります「まもりん」のマスコット、まもりんが着けているたすきに反射材が付いており、夜、外出時に車のライトに反射して目立つようになっております。

関市のイベントでありますマラソン大会で交通整理、シドニーオリンピックで金メダルを獲得した高橋尚子さんをゲストに迎え、毎回約 3,000 人の参加者がいます。その大会で、交通安全女性の会員約 50 名が交通整理ボランティアとして大会が成功出来るよう努力しております。

小学生が登校時使用している分団旗の贈呈、毎年ではありませんが、市内の学校全てで使用している分団旗を定期的にお渡ししています。

自転車安全大会出場小学校へ横断幕を贈呈、大会に出場する学校と相談し、渡すものを考えています。26 年度は応援用の横断幕、25 年度は大会に出場する選手全員分のヘルメットを贈呈しました。

高齢者交通安全大学校の開校式、高齢者交通安全大学校とは、市と警察、交通安全協会

の共催で、老人クラブの会員の方が参加する交通安全教室になります。毎回ではないですが、交通安全女性で協力できる時には私達も参加しております。

これからも関市交通安全連絡協議会は女性ならではの気配りで交通安全啓発活動を実施し、交通事故のない街づくりに貢献してまいりたいと思います。

指導員としての活動及び事例報告

富山県交通指導員連絡協議会　会長　伊井　好作

上市町の概況をお伝えいたします。上市町は約２万 6,000 余りの人口があります。そして、シンボルは上市町から見える霊峰・剱岳、標高 2,999 メートルになります。「日本百名山」の中で、「豪宕、峻烈、高邁の風格」と書かれております。また、登山口である馬場島には、中部山岳国立公園の中にあり、豊富な自然と緑の木々に覆われ、小上高地とも称されるほど四季折々に美しい表情を見せています。

そこで、私の常日頃の交通指導員活動の一部を発表させていただきます。

上市町には大体 550 人の交通指導員がいます。４月１日に各指導員が県からの委嘱状の交付を受け、その後、新入学生の交通指導に行きます。近くに踏切があったり、道路が狭かったり、交通量の多い所で、安全確認等の街頭指導、生徒の皆さんに指導しています。

それから、これは地元の私どもの小学校では、自転車教室ということで高学年を対象にし、近くの道路を一周するという安全指導をやっています。生徒は３、40 人でしたが、自転車の正しい乗り方ということで一生懸命指導をやっています。

その他の街頭指導では、人波作戦、そして、車の多い県道で、名産のサトイモをドライバーに配布して安全運転を呼び掛けています。

小学生による交通安全活動では、指導員と子供たちが一緒になってドライバーに対して安全の呼び掛けをしています。

その他、近くのスーパー前で場所を借りて、高齢者や、子供に対して手作りマスコットやチラシを配布するなどして交通事故防止を呼び掛けています。「つるぎくん」という地元のキャラクターも大活躍です。

ただいま！元気な声を聞きたくて……

石川県金沢市交通安全母の会　会長　中村　恵子

私達、金沢市交通安全母の会は、金沢市校下婦人会委員会連絡協議会の交通安全委員会を中心に、交通安全について活動しております。交通安全お守りマスコットを年間何と約

6,000 個、各校下婦人会で作成しています。交通安全の祈願を済ませ、地域の新１年生や高齢者の方々へ贈呈をしております。さらに、交通安全教室を開催し、地域での様々な啓発活動につなげております。

交通安全マスコットの歴史です。まず、これは事故に遭わんの「あ・わんちゃん」で、交通事故防止の「ぼうしくん」、そして、現在は、振り返る「かえるちゃん」。その時々に会員が心を込めて作っております。近年は反射材を付けたものを作って皆さんにお配りしております。対象は各１年生なので、可愛らしい子供たちに、夜、本当は出ては駄目なのですが、そのような反射材を付けて事故に遭わないようにと、ちょっとした試みです。金沢市交通安全母の会の合言葉、『「気ぃつけてね！」、その愛の一声事故防止。』です。

これまでの自転車についての学習の経緯をご紹介いたします。平成 23 年度に自転車マナーアップの啓発をスタートさせました。24 年度には金沢市公共レンタサイクル「まちのり」の調査を提案し、25 年度からは自転車が安全に走れる街づくりについて、色々な面から学習することを目標としてきました。自転車に注目した学習の発端は、金沢市の公共レンタサイクルの「まちのり」がスタートしたことでした。

平成 24 年３月に金沢市が始めた「まちのり」、金沢駅前ライブ１にあるまちのり事務局を訪ねました。利用方法などを詳しくお聞きし、利用体験レポートを行ったり、利用している観光客にインタビューを実施するなどして、たどり着いた思いは、金沢の町並みを楽しむため、歴史と文化と人の優しさ、思いやりが大切であるということでした。

さて、最近の交通事情から、トピックスを挙げてみました。

特に衝撃的だったのは、自転車走行の小学生が加害者となった事故の裁判で 9,500 万円という高額の損害賠償の判例が出たということです。保護者の監督不行き届きとのことでした。また、自転車走行マナーの特集記事が出るなど、自転車が話題となっています。

今年３月には北陸新幹線が開業しました。金沢港にも大型客船の入港が増え、観光客や船員さんの数も増えてまいりました。石川県に全国初の自転車専門学校が開校されました。交通安全白書が発表され、高齢者の死亡事故が大問題です。平成 25 年 12 月 1 日より道路交通法が改正になり、自転車走行について法律で厳しくチェックされるようになりました。

平成 25 年度は、学習に先立ち、地域の会員や自転車利用者へのアンケートを実施いたしました。目的は自転車走行の理解とマナーについての確認です。回収率は何と 90.8%。ご意見の中には、自転車と自動車、自転車と歩行者のヒヤリの場面が生々しく報告されているものもありました。

アンケートで心配になったのは、自転車の理解。「自転車は歩行者である。」と回答した

方は約１割もあったということです。これは間違っています。自転車は車両になります。大人である私達会員相互が交通安全の正しい知識を身に付けなくてはいけないと思いました。

次に、自転車専用通行帯と、自転車走行指導帯での走行状態を通学時間帯にかけて現状調査いたしました。東金沢駅から小坂交差点の自転車専用通行帯です。交差点では、横断しようとする自転車が殺到して危険な状態がみられました。石川県警でも危険が確認され、今後の時間帯や道路状況での改善が期待される見込みです。

次、自転車の販売営業から修理、イベント企画まで学習する専門学校が石川県に開校しました。当時の報道では、何と全国初の専門学校で、卒業生は全国各地のイオン系列の自転車ショップへの就職が内定するということでした。石川県が選ばれた決め手は、まずツール・ド・のとや河北潟レースなどの自転車イベントが多いこと、また、北陸新幹線の開業で、全国的にも交通の便が良くなることと報道されておりました。自転車の町・石川県として全国から注目されております。

平成 25 年度石川県女性県政会議金沢地区大会で、石川県谷本知事にご提案しました。自転車の安全利用の推進として、自転車には免許制度がありません。３歳頃から高齢者まで、利用者の年齢には大きな幅があります。小さい子供たちの自転車走行には保護者の監督責任があります。ヘルメット着用や危険走行、マナーやルールなどを教育する場を設ける必要性も評価いただいているというご回答もいただけました。

また、自動車運転手には、自動車にはどのような走行規定があるのか、自転車の法律が改正されたことなどを含めて運転免許更新時の講習会にて勉強していただくことになったともお聞きいたしました。お互いに思いやり運転を心掛けて行きたいものだと切に願っております。

「気ぃ～つけてね！」愛の一声事故防止。歩行者も自転車も自動車も安全に通行出来る街でありたい。そして、家族の無事の帰りを待っています。

安全で、安心な県都金沢、それが私達の目指す「お・も・て・な・し。」。

ご清聴ありがとうございました。

交通安全は家庭から

福井県鯖江市交通安全母の会　理事　鈴木　順子

鯖江市交通安全母の会、「交通安全は家庭から。」をスローガンに、子供から高齢者の皆

様まで、安心・安全な生活を送るため、交通安全意識の高揚と交通マナーの向上を願い、交通事故から守る活動をして来ております。

子供から高齢者まで幅広い年代の方を対象に、交通事故のない社会を目指し、日頃から積極的に交通安全に対する意識を高めてもらうことを目的に、交通安全鯖江市民大会を毎年開催しております。安心・安全で快適な交通社会の実現に向けて邁進するこの大会が、交通安全について改めて考える良い機会となって欲しいと願い、この大会を開催いたしております。

幼児の交通事故の最大の原因は、1人歩き中の飛び出しなのです。そこで、鯖江市では「手をつないで子供を守ろうキャンペーン。」を今現在も実施しております。

福井県交通安全母の会、丹南ブロック研修鯖江大会、交通安全市民大会を兼ねて、2011年10月10日に鯖江で有名な西山公園広場で、鯖江市民と共に交通安全クイズに答えながら、本町周辺の史跡を巡りました。

その他、自転車、自動車のシミュレーター体験、それから、シートベルト着用体験など、各種イベントも行われました。たくさん参加していただき、また、当日は良い天気に恵まれ、とても良い交通安全大会になりました。そして、最後に交通安全母の会も協賛したお楽しみ抽選会はとても盛り上がりましたね。

交通安全鯖江市民大会は毎年開催しています。受付、各種コーナーのお手伝い、そして、県の交通安全マスコットの「リューミーちゃん」も駆けつけてくださって、とても子供達は騒ぎまくっていましたけれど、毎年色々なイベントで頑張ってやっております。

次はちょっと変わりまして、「交通安全　愛　メッセージ活動。」。鯖江市の園児さん達に、心を込めて交通安全の絵をはがきに描いてもらいました。車に気を付けてねというメッセージがたくさん入っていて、かわいい絵がたくさん出来ました。

そして、今度その愛メッセージはがきを高齢者の方に事故に遭わないようにと、鯖江市にあります高年大学、60歳以上の方が通える高年大学ですけれども、そこへ行きまして、皆さんに交通事故に遭わないように啓発活動もいたしまして、そして交通安全の愛メッセージはがきを皆様にお渡ししました。

その他の交通安全啓発活動ですけれども、反射材の配布、貼り付け活動をしています。そしてまた、高齢者の集まりに参加して、出向いて顔を見て、皆さんに交通安全の意識を高めてもらうためにお話しを行ったりしています。今年は交通安全のクイズも行い、大変盛り上がりました。

次に、福井県交通安全母の会を兼ねて、26年度丹南ブロック研修会をいたしました。ま

ず、福井県県民安全課主任の矢納先生による「正しいルールで安全第一、交通事故に遭わないために気を付けるポイント。」について講演をしていただき、皆さん聞き入っていました。先生は色々と上手に、皆さんを喜ばせるようにお話ししていただきましたので、退屈はしなかったです。そして、交通安全○×クイズもまたすごく盛り上がりました。横の人を見ては○を出したり×を出したり、交通安全が身に付いたのではないかと思います。

鯖江市交通安全母の会では、これからも安心・安全で快適な街づくり、子供たちや高齢者を交通事故から守るため、日頃から積極的に交通安全意識を高め、交通マナーの向上を図るために、色々な活動をしていきたいと思います。

静岡県交通安全母の会連合会ブロック別研修会について

静岡県交通安全母の会　会長　大川　美津江

私達交通安全母の会は、「交通安全は家庭から。」をスローガンに、家庭から１人も交通事故の当事者を出さない、明るい安全な家庭や社会を築くために活動しています。交通安全母の会は、昭和 40 年代の始め、我が子の命を交通事故から守るため、自然発生的に全国各地でボランティアとして組織化されました。

そして、静岡県では、昭和 50 年９月 22 日に５市９町の２万 7,550 人が加盟して、静岡県交通安全母の会連合会が設立されました。その後、賛同する市町が加盟し、ピーク時には 30 市町の加盟がありましたが、市町村合併の影響もあり、平成 27 年現在では、11 市町の 11 団体、約１万 7,000 人の加盟となっています。

県交通安全母の会の主な活動としては、街頭指導を始め高齢者世帯交通安全啓発訪問や子供交通安全教室の開催、交通安全マスコットの作成、配布、広報誌の発行、各地の交通安全運動の参加など、県や警察などとの協働で実施しています。

本日の発表テーマである、静岡県交通安全母の会連合会ブロック研修会は、交通安全に対する母親の重要性に鑑み、地域、家庭における母親の交通安全活動を推進するため開催し、会員の指導能力、資質の向上を図ることを目的としています。

管内の警察署並びに市町の協力を得て、市町交通安全母の会会員を対象に、伊豆の地区、東部地区、中部地区、西部地区の４地区でブロック研修会を実施しています。幼児交通指導者研修会と合同で開催するため、幼児の保護者、幼稚園教諭、認定こども園の保育教諭、保育所保育士等も参加しています。

研修内容としましては、各警察署交通課長による幼児の交通事故状況等に関する交通講話、各地区支部交通安全指導員による実践指導、ＪＡＦによるチャイルドシート着用につ

いての実践指導、各地区代表の市町母の会会員等による市町交通安全母の会活動報告等が行われます。

昨年度の実施後のアンケートには、次のような意見が寄せられました。「当たり前、知っているつもり、大丈夫だと思っている交通安全だが、慣れの気持ちや気の緩みから、取り返しのつかない大事故へとつながってしまう。子供達の命を守るために、まず正しい見本を大人が見せなければならないと思う。大切な役割を再確認することができました。」。

また、「子供に交通安全についてどう教えたら良いか参考になった。自分の意識が変わることで、家族の身も守れると思うので、今回の研修会に参加出来て本当に良かったです。」。「子供がどうすれば安全な行動が出来るか、色々な方法を教えていただき、参考になりました。日頃、当たり前になってしまっていることを再確認してみたいと思いました。」など、たくさんありました。時間の関係で全ては言い尽くせませんが、「研修会に出席することが出来て、大変良い刺激を受けることができた。」。という感想を多くいただきました。

今後とも私達交通安全母の会は、「交通安全は家庭から。」のスローガンの下、地域に密着した活動を継続して行きたいと思います。母の会の活動が各家庭から地域へ、そして、広く県民全体の交通安全意識の高揚につながり、本県はもとより全国においても交通事故のない社会の実現が早期に図られ、悲惨な交通事故がなくなることを心から願います。

愛知県交通安全母の会の交通安全啓発活動について

愛知県交通安全母の会　会長　日光　直子

私達愛知県交通安全母の会は、幼児、児童、生徒並びに老人を交通災害から守るため、家庭における交通安全教育と幼児の交通安全しつけ教育の推進者となることに努め、交通事故のない、明るい家庭づくりに寄与することを目的とし、活動を行っております。

本年の取り組みといたしましては、ハンド・アップ広報隊活動、そして、トラックと交通安全・環境フェアへのブース出展、それから、世代間交流による交通安全事業、これが主な取り組みでございます。また、交通少年団集合訓練への参加・協力、そして、各期の交通安全県民運動出発式と啓発キャンペーンへ参加しております。

これらの項目について、具体的にご紹介させていただきます。

以前行われておりました、全国交通安全母の会の活動を継承してハンド・アップ広報隊活動を行っております。子供と高齢者の交通事故防止に効果的なハンド・アップ運動の浸透を図るため、愛知県交通安全母の会を中心に啓発キャンペーンを展開するものです。

啓発品として、花の種の付いたポケットティッシュとチラシを配布して、手を上げて横断歩道を渡ることの有効性を啓発いたしました。平日の都心部ということもありまして、デパートでの買い物客のほか、学生やお仕事で移動中のサラリーマンなど、様々な年齢層の方に啓発することが出来ました。

次に、愛知県トラック協会主催の第 11 回トラックと交通安全・環境フェアにブース出展いたしました。今年は子供向けの反射材リストバンド作成コーナーと交通安全かるたコーナーを設け、主にお子様に参加していただきました。

まず、子供たちに反射材リストバンドに反射シールを３枚選んで貼ってもらい、また、油性のマジックで選んだ絵や字を描かせてオリジナルのリストバンドを作成してもらいます。作った反射材リストバンドは、反射材体験ゴーグルを使って反射材の光る様子を実際に見てもらい、その有効性について説明して、反射材を身に付けることの重要性を啓発いたしました。反射材も啓発品として配布するだけでなく、ライトを当てて光る様子を実際に見ていただくことで、より有効性を実感してもらえるようです。

交通安全かるた作成コーナーも実施いたしました。交通安全かるた創作キットを使い、かるたを１枚１枚切り、箱を組み立てて、作成して持ち帰ってもらいました。かるたの切り取りと箱の組み立てには、子供は少し時間がかかるところもあったので、私達母の会が手助けをして、コミュニケーションを図りながら取り組めたと思っております。家でかるたを使ってもらって、交通安全に関する意識の向上につながることを期待しております。

次に、世代間交流による交通安全事業でございますが、私達愛知県交通安全母の会は幼稚園などに出向いて、園児、保護者、高齢者に出席していただいて、地域に根差した参加・体験型の交通安全イベント、交通安全家族の集いを実施しております。この事業は、世代の垣根を超えて、自ら参加し、考え、学ぶことで三世代がお互いに思いやる気持ちを高め、交通安全に対する意識や行動を変えていくきっかけを作り、交通安全の輪を広げることを目的にして、毎年行っております。

今年度は 10 月 27 日に半田市立板山こども園において実施いたしました。今年の実施内容は、午前中は園児、保護者、高齢者が参加してのセレモニーを開催して、園児から高齢者への交通安全のお手紙の贈呈、全員で交通安全の誓いの唱和、警察署からの交通安全講話や交通安全マジックショーなどの観賞を行いました。また、園児、保護者、高齢者には、愛知県交通安全母の会から啓発グッズを贈呈いたしました。交通安全ボランティアによるマジックの最後には、本物の鳩が飛び出す場面もあり、園児達はとても喜んで、マジックによる交通安全の学習が出来たと思います。

これで午前中の行事は終わり、お昼の休憩の後、午後の行事に移りました。午後は、子供達の交通安全に対する意識を高めることを目的として、各教室で反射材リストバンドを作成したり、交通安全かるたや、交通安全ジグソーパズルで遊んだりする体験型交通安全教室を行いました。

また、県警の協力で、白バイとパトカーを園庭に設置していただき、愛知県の交通安全キャラクターのシーベルちゃんと、地元半田市の観光マスコットキャラクーである、だし丸くんと一緒に写真撮影も行いました。当日はお天気にも恵まれて、園児にも楽しい記憶に残る交通安全のイベントになったのではないかと思っております。

また、愛知県交通安全母の会は、愛知県警察が主催する交通少年団集合訓練の参加・協力をしております。本年度は反射材リストバンド作成コーナーと、交通安全子ども免許証の交付コーナーのお手伝いをいたしました。交通安全子ども免許証は、ＪＡＦさんが機材を用意してみえましたが、参加するのが子供ということもありまして、女性の私たち母の会が対応することにより、リラックスして楽しく参加していただけたかなと思っております。

そのほか、愛知県が行う四期の交通安全県民運動への出発式への出席と啓発キャンペーンにも参加しております。特に出発式後などで行われる啓発キャンペーンでは、道路通行車両へのサイン板での啓発と、啓発チラシと配布と県民運動に積極的に参加しております。

私達愛知県交通安全母の会は、財政状況が厳しいこともあり、なかなか大規模なイベントなどを行うのは難しいのが実情でありますが、今後もできる範囲で、主に高齢者、子供を交通事故から守るための啓発活動を行ってまいりたいと考えております。

本日の講習会で学んだことを持ち帰り、新たな取り組みについても考えて実施してまいりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

交通安全メッセージ運動等の取組

三重県交通安全母の会連合会　会長　長野　あけみ

三重県交通安全母の会連合会からは、交通安全メッセージ運動の取り組みを始めとして、いくつかの活動を紹介させていただきます。

まず１つ目の取り組みとして、メッセージ運動事業があります。交通安全の推進には、身近な家族が交通安全について話し合う、「家庭からの交通安全。」を図ることが不可欠となります。

そこで、まず、子から父、母、祖父母、兄弟などの身近な相手に交通安全メッセージを

書きます。受け取った相手は子供に交通安全メッセージを返します。これにより、交通安全メッセージを通しながら交通安全について話し合いをする場を持つことで交通安全意識を高めることを狙いとしています。お互いのメッセージが見えるように、１枚のカードに記入欄が収められています。子供さんがメッセージを書き込んで、ご家族の方が実際に文章を書いてということでメッセージの交換をしています。

メッセージカードと一緒に利用していただくテキストには、低学年用と高学年用テキストの２種類のテキストがあります。これには交通ルールなどが分かりやすくまとめられています。

三重県がこの事業の協力を依頼して、各市町または各市町の教育委員会へ伺います。三重県は交通安全母の会連合会へ委託、参加希望のある学校、幼稚園へメッセージカード、テキストを配布します。参加校では、テキストカードを渡し、子供がメッセージを記入します。各家庭において交通安全について話し合うメッセージを家族に渡し、返事を確認してもらうということになります。学校、幼稚園が出来上がったカードを提出、その提出されたカードのコピーを事務局へ提出します。事務局は参加証を全員分とメッセージ集を作成した後、配布します。このような流れになっております。

本年度は 11 月９日にメッセージ審査会を実施しました。12 月５日には開催予定である三重県交通安全県民大会で表彰を予定しております。３月中旬にはメッセージ集を発行する予定となっております。

メッセージ審査へエントリーするため、各学校、幼稚園で学年３点程度のコピーを提出してもらいます。これは１次審査です。２次審査として、母の会事務局による入賞等を選定します。３次審査として、各母の会連合会による選定が行われます。４次審査として、11 月９日には最優秀賞３点、優秀賞５点、優良賞 20 点が選ばれ、決定いたしました。

平成 26 年度最優秀賞から、保育園５歳の女の子が、「おとうさんへ　いつもこうつうじこにあわないようにしてください。げんきにかえってきてください。　〇〇より。」。「〇〇へ　どうろにでるときは、みぎひだりよくみてわたろうね。おとうさんもこうつうルールをまもってかいしゃにいくからね。　おとうさんより。」と、このようにお互いが気遣い、交通安全を呼び掛け合っています。

平成 26 年度最優秀賞からもう１点、小学校３年生の男の子が、「お母さんへ　お母さん、思いやりの心をもっていますか！　その心でちゃんと交通ルールをまもってください。〇〇より。」。「〇〇へ　思いやり、ゆずりあいの心は、いそいでいるとついつい忘れがちになるので、気をつけるね。ありがとう。　ママより。」と、これは子供の目線からお母

さんに交通安全を呼び掛けています。しっかりしたお子さんですね。そして、入賞した作品を載せたメッセージ集を参加校へ配布しました。

主な取り組みの２つ目として、春・秋に実施する交通安全指導者講習会、春は総会と共に三重県交通安全研修センターで実施します。手旗の方法を教えてもらったり、濡れた路面でブレーキを掛けると停止距離が延びるということで、雨降りは危険ですということを体験しました。

自転車体験コース（室内）においては、一時停止場所やトンネル、坂道など様々な障害物があり、実際に自転車に乗り、交通ルールを学びます。街頭指導を行う際の手旗の方法も併せて行いました。自転車学習コース（屋外）では、自転車専用レーンや自転車通行可の歩道、信号交差点の走行ルールなどを学びました。自動車体験コース（屋外）では、危険回避の方法等を安全に体験しました。自転車の一旦停止を学び、交差点などではしっかりと止まるということを教えてもらいます。

今の自動車に付いているアンチロックブレーキシステムは、この体験では 60 キロでしたが、60 キロの走行のまま思い切りブレーキを踏み込むと後ろのタイヤがロックされますが、前のタイヤが自由に動くので、ハンドル操作によって右か左と聞いて、飛び出した方など回避出来るというシステムだそうです。

60 キロという速度でブレーキを踏み込むということは、ものすごいブレーキ音です。指導員の方に、これからやってもらいますというふうに言われると、若いお母さん方は悲鳴を上げられます。ですけど、知っていることと、使えるということは違うと思いますので、良い体験になったかなと思います。

参加者の感想として、「とても良い自己啓発になりました。」、「屋外での実技講習は大変勉強になりました。」、「講習会に参加しなければ知らなかったことがたくさんありました。」、「何回受けても勉強になって良いです。」。など、実技講習は大変良かったという声が多く聞かれました。

平成 26 年、三重県の交通事故死者数は 112 人でした。交通事故防止を呼び掛けるため、ＦＭ三重レディオキューブが交通安全キャンペーンを実施しました。秋の全国交通安全運動期間中を含む２ヵ月間に渡って行われました。参加校で収録を行い、高齢者に対してのメッセージを録音しました。

また、反射材の利用促進を行うため、こんな反射材があったら良いなと思う作品のアイデアを募集して、県民大会などで作品展示をしました。今年度は、秋の交通安全運動期間中に、反射材を利用したミサンガ作りをするコーナーを設置しました。リフレという糸で

すけど、毛糸のような素材ですので、編み込んでコサージュとかミサンガなどが作れます。

「継続は力なり。」と申しますが、交通安全の活動においては、継続は命へとつながって行くのではないでしょうか。今後も継続的に実施をして、交通事故防止につながるよう取り組んでいきたいと思っています。

【２日目】

■講演

高齢者に対する交通安全指導の基本

千葉大学　名誉教授　鈴木　春男

皆さん、こんにちは。只今ご紹介いただきました鈴木でございます。

私の講義は、お手元の資料の 12 ページにございますように、「高齢者に対する交通安全指導の基本」ということでお話をさせていただきます。

私自身、もう実は後期高齢者で高齢者の真っただ中におります。ですから、自分のことを材料に、高齢者はこんな特性を持っているんだというようなことをお話させていただこうと思っております。

高齢者の交通事故は大変多いんです。日本の交通事故の死者の５割以上を高齢者が占めています。日本の高齢者、65 歳以上の人口は全人口のうち約 23%で、４人に１人弱が日本の人口に占める 65 歳以上のお年寄りの比率なんですね。

ですから、年齢に関係なく、どんな年齢層でも同じように事故に遭って、同じように亡くなるということであるならば、亡くなる方、先ほどお話の５千何百人という方が１年間に亡くなっていますが、その方の中で高齢者の占める比率というのはやっぱり 23%であって良いはずなんですね。ところが、人口の上では 23%しかいないお年寄りが交通事故で亡くなっている方の中で 50%を超している。だから、人口の比率に対して亡くなる方の比率が 2.1 倍から 2.2 倍になっているんですね、こんな国は世界何処へ行ってもありません。例えばフランスとかドイツは 1.1 倍とか 1.2 倍なんです。高齢者の比率と亡くなっている方のうちの高齢者の占める比率というのはそんなに違わないんですね。

ところが、日本ではどうした訳か、高齢者の人口の比率に対して亡くなる方の比率が高齢者の比率の 2.1 倍とか 2.2 倍近い。これはもう本当にある意味では異常なことなんですね。日本は犯罪の面から言っても大変安心な国だと思います。お年寄りに会って、日本は安全な国ですかというと、ほとんどのお年寄りが日本ぐらい世界中で安全な国はないと言います。しかし、交通事故に関しては日本ぐらい、ある意味ではお年寄りにとって住みにくい国はない、大変危険な国である。

日本で非常に多いお年寄りの事故が一体どんな所から来ているのか、お年寄りの交通事故の背景にある特性ってどんな所にあるのか。そこから今日はお話をしていきたいと思います。お手元のレジュメに「高齢者事故の背後にあるもの。」ということで、まず第一に、頭で考える自分と、実際の自分との間に意識と行動の大きなミスマッチがある。

その下に、昔は道路を横断するのに５秒あれば渡れた。だけど、今は歩行速度が遅くなって、実は 10 秒かかっちゃっている。でも、ご本人は 10 秒かかっているとは全然思っていないんです。気持ちは５秒。だから、実際の行動 10 秒というのと自分の意識、気持ちは５秒という、その間にものすごく大きなずれがあるんですね。このずれが大きな事故を招いているということです。

それから、過去の経験に囚われる。実はお年寄りの事故というのは、ほとんど家の近くで起こっています。もちろん、行動範囲がお年寄りになると家の近くになる、ということもあるんですけども、それだけではないんですね。家の近くで起こる。なぜか。昔はこんなはずじゃなかった、昔のその経験を基に現在自分が行動してしまっている。それが２つ目の大きな問題としてあります。

それから、３番目の問題として、体の力も残念ながら低下する。私も随分歩行速度が遅くなっています。特に、お手元に書いてありますように動体視力が低下する。動体視力ってご存じですよね。静止しているものを自分が止まった状態で見るのは動体視力ではありません。動いているものを止まって見る、自分が動きながら物を見る。これが動体視力ですが、これが高齢者になると非常に低下してまいります。

それから、視野がどうしても高齢者になると狭くなります。私、いつもこのお話をする時に実験をさせていただくんですけど、ちょっと両手を前に、親指でも人差し指でも結構です。前へ立ってみてください。で、目の玉を動かさないで、この手をずっと広げていってください。まだこの位だと私は両方の親指が見えます。目は動かさないで両方の親指が見える範囲で止めて下さい。私、残念ながらこの位なんですよ。昔はこの位見えました。ですから、視界はやっぱり高齢者になるとすごく狭くなるんですね。

確かにそれ以外にも色んな意味で体力が低下しています。ただ、この体力の低下の問題は、自分の視界が狭くなっているということをちゃんと意識していれば、見る時に目を右に向けたり、首を右に向けたり左に向けたりすることによって、実は若い時と同じようにかなり広い視野が確保出来るわけです。

高齢者を指導なさる時の大変重要な注意は、皆さんこんなふうに体力が低下していますよ、気を付けなさいで終わっては駄目なんですね。そうすると、私なんかもひがみっぽいですから、何か余り愉快でなくなってしまう。でも、ちょっと目を動かしたり首を回したりすれば、若いときと同じことが出来るんですよ、だからそうしましょうねと言うと、皆さん大変安心し、これからはそういうふうにして運転しようという気持ちになって行くんですね。ですから、指導をなさる時はそこまで言っていただいた方が良いと思います。

４番目、これが私は一番重要なポイントだと思いますが、沢山の情報を同時に処理する能力が低下する。一遍に沢山の話だとか、沢山の映像だとか、沢山の出来事だとか、そういうのを全部一緒に処理する、この能力が高齢者になるととても低下します。よく私は学生と実験をするのですけども、学生は左側、私は右側に座り、前の壁に模型の信号機、赤・青・黄色が点灯します。信号機の赤が点灯したら、いち早く前の机をポンと手で叩く、この競争をします。私、絶対学生に負けませんよ。赤がついたら、ちゃんと叩きます。ところが、赤という光が１つなら絶対負けないんです。でも、そこに音を入れる。ブザーが鳴って同時に赤の時に叩く。ブザーが鳴っても黄色は叩かない。赤でブザーが鳴らない時も机を叩いては駄目です。これは残念ながら、ブザーと、音と光の両方、情報を処理して反応する、反応時間が遅くなったり、ブザーが鳴らないのに叩いたりしてしまいます。つまり光という情報が１つの時には絶対若い人に負けませんけども、音と光という２つの情報を同時に処理することになると、僕は若い人よりも大分劣ることになるんです。

でも、交通は２つだけの情報で出来てはいませんね。車を運転して右折する時のことを考えてください。いくつも情報を処理しなくてはいけません。左から車が来ないか、正面から車が来ないか、正面の車のその横に自転車が来ないか、あるいは横断歩道を向こうから来る人もいるし、こっちから来る人もいる。沢山の情報を処理しなければならない。だから、高齢者になると右折事故というのが俄然多くなります。左折の方がまだ情報量が少なくて済みますね。右折する時はすごい情報量になりますのでたくさんの情報を処理する能力が残念ながら年をとると低下します。そうするととても処理し切れない情報を忘れてしまうのです。つまり、処理し切れない情報は捨てられるのです。この一番典型的な例は、ある情報を持って行動をしますが、次の情報も入ってくると前の情報を忘れてしまう、これが頻繁に起こる。

いつも私はこれを例に挙げるのですが、私が２階の自分の部屋で原稿を書いていた。家内が下から、食事の支度が出来ましたと大声で呼びます。ああ、分かったよと言って下へ降りて行く。ところが、その降りて行く時に、僕はある物を持って降りようと思っていたのにそれを忘れて下へ来てしまう。ああ、しまった、今あれを持ってくるのを忘れた、もう一回ちょっと２階の自分の部屋へ行く。そうすると、たまたま慌てて部屋を出たものですから、窓が開いていて、そこから風が吹き込み大事な原稿が全部風で散らばっている。ああ、いけない、大事な原稿を揃えているうちに自分が何しに２階に来たか全然忘れているんです。このようなことが私には頻繁に起こります。つまり、ある現象が起こり、ある情報が入ってくると、その前の情報を忘れてしまう。２階に物を忘れたぐらいだったら別

に良いんですけど、これが交通で起こると大変です。

レジュメに書いてある例ですが、あるお年寄りが道路を横断しようと思い、慎重に右を見たら車が１台も来ていなかった。左を見たら大分遠くに１台車が来ていた。ああ、あの車が通り過ぎてから渡ろうと思い、左の車が通り過ぎるのを待っていました。ところが、そこで不幸なことが起こりました。さっき右を見たときには車が１台もいなかったはずなのに、自分が止まっているその路地から車が１台出てきて、自分の前をスーッと通りました。お年寄りはびっくりしますね。あっ、路地から車が出て来て前を通った。危なかったな、右を見た時、車が来ないので俺は安心してしまった。そう思った途端に、さっき気が付いていた左から車が来ていることを忘れてしまうんです。右から車が通り過ぎて、ああ良かったといって、その後ろを横断する。車のドライバーはびっくりしますよ。だって、自分を見て止まってくれたお年寄りが、右の路地から出て来た車の後ろを横切って自分の前に飛び出す形になる訳ですから。このように、大事な情報を持っていたのに、次の新しい大事な情報が入ってくるとその直前の情報を忘れてしまうことが頻繁に起こったりするんですね。

このように沢山の情報を処理するということが大変難しくなります。これは歩く時や運転する時もですけども、出来るだけ単純な判断で行動が出来るようにする。例えば運転の場合には複雑な交差点を避けたり、人と話しながら運転をしない、あるいは家を探しながら運転しない。あらかじめ地図をちゃんと頭に入れて運転する。複雑な情報を同時に処理する機会が出来るだけないようにという心掛けが大事だと思います。

それから、生活に充実感、満足感を持っているお年寄りは事故が少ない。実は今申し上げた、たくさんの情報を処理する能力が低下することと関連するんですが、悩み事がない、つまり、くよくよ考えながら歩いているのは非常に危険なので、悩み事がない状態、気持ちがすっきりして交通行動に集中出来る状態を作っておくことが非常に大事なんです。

仮に悩み事があっても、近所に何でも聞いてくれる親しい友人がいたり、あるいはご家族が非常にお年寄りを大事にして、色んな話を聞いてくれる家族がいたりするお年寄りは、実は悩み事が少なくなる。そうすると、色んな情報を同時に処理するということがだんだん少なくなって、実は非常に安全なんですね。例えばここにいらっしゃる日頃ボランティア活動をされているリーダーの方々は、実はご自身もお友達を沢山持っていらっしゃる。そういう意味では安全な方々だと思います。そういうリーダーの方々が仲間作りをしてあげる、仲間を沢山持ってもらう場を作ることが実は立派な交通安全指導になっているのです。

高齢者の事故に何があるのか少し検討してみましたが、我々が次に高齢者を指導していく時、どんな立場、どんな視点、どんな見方で高齢者を指導して行けば良いのかを次にお話をしてみたいと思います。

高齢者を画一的に見ない。例えば 20 代の若者というのは、大体 20 代として共通の特性を持っています。ところが、先程お年寄りの特性をお話ししましたが、これに全員当てはまるものではなく、実に色んな多様なお年寄りがいます。100 歳を超えてまだ免許を持って運転されている方が日本に何人かいる話を聞きました。しかし片方では、まだ 60 代なのにもう運転が危ないなというお年寄りもいる。つまり、お年寄りというのは実に多様なんです。だから、一人一人の視点、個という視点で指導することが非常に大事だと思います。

そういうお年寄りの様々な多様性というのを導くものが一体何か、ということが次に書いてあります。地域の密着した視点が必要であるということが書いてあります。実はその人がどんな所に住んでいるのかが、お年寄り１人１人の特性を決める非常に大事なポイントです。ですから、指導する時は、その方々がどんな所に住んでいるか、その地域の特性を踏まえ指導することが非常に大事なポイントだと思います。

例えば公共交通機関が非常に発達している大都市にお住まいのお年寄りと、まだ発達していない地域にお住まいのお年寄りでは交通手段も全然違いますし、交通行動も随分違っています。そういう地域の問題があります。

３番目には生活構造です。その人がどんな生活をしているか。例えばお１人住まいなのか、それとも老夫婦で住んでおられる方々なのか、健康なのか、あるいはお孫さんやお子さんと一緒に住んでいるのか、その人が家族構成も含めてどんな生活をされているか、これもお年寄りの特性を決める、多様な特性を導く１つの大事なポイントだと思います。

それから、４番目に高齢者を弱者としてのみ扱わないことが大事です。日本の高齢者は、実は経済的にも生活的にも大変自立されています。ところが残念なのは、交通分野ではお年寄りは弱者として扱われている傾向が、実はその原因の１つとして考えられるといつも思っています。

内閣府の調査ですが「高齢者の生活と意識。」という国際比較の調査をしました。世界 11 ヵ国で先進国も発展途上国もあります。そういう国々のお年寄りに色々な質問をしてみました。その中に、自分たちの老後は何によって支えられるべきだと思うか、自分の老後はどういう形で維持されるべきかという質問がありました。

答えが３つ用意されていました。Ａの答えは、自分の老後は、我が子や親類・親族が老

後を支えてくれるべきだ。自分も若い頃、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんを支えた。だから、自分の時は自分の親族、子供、親戚が老後を支えてくれるべきだ。Ｂの答えは、自分の老後は、国、自治体、社会など社会保障が老後を支えてくれるべきだ。Ｃの答えは、自分の老後は自分で支えるべきだ。若いとき一生懸命頑張って、少しでもお金をプールし、高齢者になっても働ければ自分でちゃんと働き、自分の生活は自分で支えていく、これが老後のあり方だ。

この３つの答えを用意して、11 ヵ国のお年寄りの人たちにその質問をしました。タイとかフィリピンが入っていた開発途上国のお年寄りの一番多かった答えはＡです。子供だとか親族が自分の老後を支えてくれるべきだと。ヨーロッパのフランス、ドイツ、イギリス、アメリカも入っていましたが、そういう先進諸国のお年寄りの答えはＢでした。国や自治体、そういう社会が自分の老後を支えてくれるべきだ。ところが、日本のお年寄りは違いました。日本のお年寄りはＣです。立派ですね。自分の老後は自分で支えるべきだと。

私もまだこのように皆さんの前でお話をする仕事をしていますが、高齢者になって仕事をしている率は日本のお年寄りが断然高いんです。さっきの 11 ヵ国の中で一番日本のお年寄りが高い。だから、日本のお年寄りは本当に立派だと思うんです。経済的にも生活的にも自分で自分の生活は支えたいと思っている。このように自立されたお年寄りが沢山日本にはいることがこの調査で分かりました。ただ、残念ながら、交通に関しては違いました。余り自立されておられない。私たちは若い人から守られるべきだ、あるいは社会から守られるべきだ、そういう弱者として扱われる傾向が日本の社会は強いですね。私は、交通の世界でもお年寄りはちゃんと自立をする場があると思うし、それこそが安全に結び付くのではないかと思っております。

その次に、高齢者の柔軟な発想に期待すること。残念ながら、私もそうですけど、年をとると体も硬くなり、気持ちも硬くなり意固地・頑固になります。その頑固さをもっと柔軟にして「自分は間違ったのかな、自分はひょっとして危ないのかな。」と気付くような、硬さの解消が非常に大事なポイントだと思います。その硬さの解消と深く関わるのが他人と関わる場を作る事です。１人でいればいるほど意固地になりますので、友人を沢山持ち人と関わる場を作る。友人や家族、人間関係に参加する場を出来るだけ作ることによって、実は弾力的に相手の立場に立って物を考え、非常に柔軟な発想をして行くという結果になります。

７番目は遊び性を交通安全指導に生かすことです。私は最近このことに非常に関心を持っています。人間というのは、生物の用語でいうと「ホモ・サピエンス」。これは知性の

ある人という意味です。他の動物にはない知恵を持っている生き物が人間だと。これがホモ・サピエンスという人間を表す言葉の基になっていますね。しかし、もっと他に人間の定義が出来るのではないかということから、「ホモ・ファーベル」という言葉が出て来ました。ファーベルというのは物を作る、工作するという意味です。つまり、他の動物になくて人間にあるのは、道具を持っているということ。人間が物を作る、あるいは物を作るための道具、そういう物を作る存在が人間なんだと。ただ、これは最近怪しくなっています。人間だけが物を作る訳じゃない、道具を人間だけが持っている訳じゃない。実は類人猿、例えばオランウータンやゴリラ、チンパンジーなども道具を持っています。昔、テレビで見たのですが、ある木の穴に蜜がたまり、蜜の良い匂いがする。そこで、昔の道具を持たないチンパンジーは、その入り口の所へ行って、舌でペロペロ舐めたんですね。そうすると唾液が中へ入りこみ、唾液にその蜜が溶けて吸える。そうやって蜜を舐めていたんですね。ところが、最近のチンパンジーは道具を持っているんです。木の枝を折って、枝を歯で噛み、刷毛みたいにして木の枝を穴の中に突っ込みクルクルと回し、刷毛の部分に蜜を付けて舐めている。これは明らかに道具ですね。

ゴリラはもっとすごいですね。昔のゴリラは高い木から落ちた木の実が大好物なんです。この木の実を食べたいのですが、ほとんどの木の実は、10 個に 1 個ぐらいしか割れていないんです。その割れている木の実を探して歯で割って食べていたんです。ところが、最近のマウンテンゴリラは自分愛用の石を持っていて、石の上に木の実を乗せ、金づちに相当するもう 1 つの石で叩いて割る。だから、10 個とも全部割って食べられる。この金づちは石ですが、まさに道具なんです。人間だけがホモ・ファーベル、工作する動物ではなくなって来ているということが最近は分かって来ています。しかし、人間の工作能力と先程の能力とは全然まだ差はありますが、最近のニュースをて見ていると、孫がおじいさんを殺しただとか、物騒な話題が毎日出て来ます。こんな社会を人間が作っていたら、もう瞬く間に類人猿に追い付かれるのではないかと思いますね。いずれ地球は本当に「猿の惑星」になってしまうのではと思いますね。彼らは人間の真似をしていれば、人類にすぐ追い付くんじゃないかな、そんなくだらない心配もしたりしております。以上がホモ・ファーベルという定義が２番目の定義です。

３番目の定義が実はホモ・ルーデンスという、これはホイジンガというオランダのライデン大学の学長をされた方が「ホモ・ルーデンス。」という本を書いたんです。ホモ・ルーデンスというのは遊ぶ人という意味です。ホイジンガは、人間は知性があるという特性、あるいは物を作るという特性もある、でも、もしかしたらもっと大事な特性は、遊ぶ存在、

遊びを知っていることにあると。だから、この人間の基本的な遊ぶという特性を何とか利用して安全ということに結び付けられないか。詳しいことは後でお読みいただければと思うんですけど、ホイジンガのお弟子さんにロジェ・カイヨワというフランス人がいまして、この人が「遊びと人間。」という本を書いています。この「遊びと人間。」という本の中で、遊びというのは４つの特徴・要素がある。

１つは競争、競い合いだと。スポーツは競い合いという原理を利用した遊びですね。２番目は賭けでやるギャンブルですね。これは要するに、競い合いは腕の競い合い、鍛錬の結果の競い合いですけど、賭けというのは腕の競い合いではないですね。運の競い合い、運が良いか悪いか、これを楽しむ。これが２番目の遊びの要素だと。３番目の要素は、これ英語でミミクリーと言うんですけども、模擬、物真似。つまり、自分の住んでいる世界とは違う、もう１つの別の世界を遊びの中で楽しむということ。つまり、小さいお子さんたちがままごとをやる。あのままごとという遊びは、お父さんやお母さんでもないですね。だけど、ままごとの中でお父さんをやれるんです。お父さんやお母さんを体験することが出来る。そういう自分の今住んでいる世界とは違う世界を遊びの中で楽しむことが出来る。これがミミクリー、模擬の世界です。私は渥美清、寅さんの映画がすごい好きなんですね。何故かといったら、あんなに自由気ままに生活出来たら羨ましいなと思います。しかし現実世界ではちょっとやれないものですから、寅さん映画を見るんですね。寅さんの映画を見ると自分が寅さんになり切れるんですよ。だから、自分の住んでいる世界ともう１つ違う別の世界を遊び、映画を観るという楽しみの中で体験することが出来る。これが３番目の要素。４番目はめまいの状態。つまり我を忘れて、ある種のパニック状態というか、めまいの状態、渦巻きの状態を遊びの中で楽しむ。例えば若者がスピードを出して運転する、イリンクスと言うんですけど、この要素による１つの楽しみというふうに思うんです。

ちょっと話がそれましたが、その話をした意味は最初に申し上げたスポーツなんかに代表される競い合いの要素。この競い合いを変えて、スピード競争をやられたらは事故に結び付いてしまいますね。でも、競い合いという人間の気持ち、遊びたいというその気持ちが安全に結び付くのは腕の競い合い、安全の競い合いもあるのではないかと。

私は昔、そんなことをちょっと考えた時があって、警察庁の運転免許課に免許制度懇談会というのがありまして、そこのメンバーをしていた時にこの提案をしました。遊びというものを何か生かせないかと。安全の競い合いをするにはやはり物差しが必要ですね。柔道も赤帯、黒帯ありますね。白帯の人は何とかして黒帯をとりたい、黒帯の人は出来たら最高段になって赤帯を取りたい、そういう資格があって競争の物差しになりますね。だか

ら安全の競い合いをしてもらうためには、何か資格のような物差しが出来ませんかと提案をさせていたしました。面白い話だと皆で話しているうちに、３年の免許とは別に５年のゴールド免許を作るとのはどうでしょうという話になり、実はその免許制度懇談会の中でゴールド免許が生まれました。ＳＤカードもそこから生まれました。１年安全運転をした、３年安全運転した、５年安全運転した。でも、何とかゴールドの 10 年の安全運転のカードを取りたい。皆で競い合いを材料にして安全に結び付ける。このような提案させていただいたりしました。

次に、「人間の行動と動機付け」という所に入ります。先程お話しした仲間づくりも立派な交通安全教育です。人間は高齢者になると、硬さが目立つというお話をしましたが、若い人もそうなんです。誰でも自分は間違っていない、自分がやったことは間違いじゃない、自分が考えたことは間違いじゃない、自分を正当化したいという気持ちをすごく強く持つんですね。ですから、自分が聞きやすい、そういう情報はすんなり受け入れます。でも、自分を正当化してくれない情報があると、あれは嘘だといって退けちゃいます。

例えば私はもう後期高齢者に入っていますが、例えばクラス会を開いて、私のＡという友人が、「鈴木、おまえ若々しいな。やっぱり何時も若い学生と接しているとそうやっていられるんだな、羨ましいよ。」なんて言ってくれたとします。この話は、若々しいと褒めてくれたわけですから、大変嬉しい。みんなは「こいつは本当のことを何時も言う男だな。」と受け入れます。でも、もう１人、そこにＢという別の友達がいて、「何が若々しいものか。あの頭みてみろよ。ほとんど毛もなくなっているじゃない。あの体型みたって、もう完全に年寄りだよ。」と言ったとします。僕はさっきのＡ君の若いなと言ってくれた情報のようにちゃんと受け入れますか？受け入れません。常に若くありたい、という自分にとって嫌な情報なのです。正直、僕はどうするか。「このＢという男、昔学生の時からこうだったな、人が何か褒めると必ず裏へ回って人を嫌がらせるようなことを言う男だった、あの若い時の性格は今だに変わっていないんだなと。あいつはＡが褒めてくれたものだから、あえて私に嫌な思いをさせようと思ってああいうことを言っているんだ、そんな嘘の情報を受け入れる必要はない。」といって退けてしまう訳です。

これはフェスティンガーという人が「認知的不協和の理論」という本の中で言っています。これは指導者である我々は、いつも頭に置いておかなくてはいけないことです。私は学生に良く注意します。免許取りたてでスピードを出している学生がいたら、その学生に「おまえ免許をとりたてで、そんなスピード出して事故を起こしちゃったらどうするんだ。」と。私は学生のためを思って正しい注意をしているつもりですよ。でも、その学生

はスピードを出したら危ないよという私の注意は、自分を補強してくれる情報ではなくて、自分にとって対立的な情報です。その友達に悪い友達がいて、「おまえぐらいの腕があったらスピード出したってどうってことないよ。」と言うと、これは受け入れますよ。だけど、そのスピードを出している学生に、私が「スピード出したら危ないよ。」と注意をする。それは学生にとってみたら対立的情報ですね。だから、私の折角の注意のあら探しをして退けてしまう。注意はフェスティンガーに言わせれば大抵退けられます。注意をし、受け入れ、自分の考え方や自分の行動を修正してもらうには一体何が必要か。大変大事なのはオピニオンリーダーです。自分の周辺の方と深い人間関係を作ること。深い人間関係に参加すると、その相手の立場に立って物を考える性質を人間は持っているんですね。だから、相手を説得したいと思ったら、人と関わる場を作り、オピニオンリーダーの下に人と対話をする。これが非常に大事なポイントです。

例えばある商品を持っている人に別の商品を買ってもらう。一番最初に必要なのは新しい商品が出たということを相手に知らせること、広告とか宣伝です。その次にあるのは、でも、その新しい商品というのは、やっぱり飛びつきがたい。そんな新しいものを入れる必要ないというふうに思う傾向がある。その時に、その人の価値を変更させる、その人の考え方を変更させる非常に重要な場が口コミの場です。つまり、新しい商品を使って、これ良いと思っている人を使っていない人と深い人間関係を作り、コミュニケーションを使ってその人の物の考え方を変えていくんですね。それによってその人の考え方というのを変える。そして、最後の詰めは対面販売で物を販売していく。そういう３段階が人を改革していくには必要です。交通教育もそうだと思うんです。今日のように沢山の方に集まっていただいて、色んな情報を提供させていただく。これは広告とか宣伝と同じような形の教育の場ですね。そして、これから発表がありますが、各地域の母の会の方々がお年寄りの家を訪問して、そしてフェース・ツー・フェースで説得していく、これは先程の対面販売の場ですね。今、交通安全教育にはこのように多くの方に集まって学んでいただく場と、それからフェース・ツー・フェースで指導していただく場の２つが完全に出来上がっています。ところが、口コミに相当するオピニオンリーダーを養成し対面的に参加することによって相手の立場に立って物を考えていく。そのような場が少し欠けています。

私どもが警察庁や内閣府などに提案している参加体験実践型の交通安全教育。自分が体を動かし、相手と対話をし、そして自分自身も変わっていく。本当の意味で集合教育や現場教育だけではない第３の教育の場が必要であることを提案し、今ではこのような教育の場が少しずつ出来てくるようになりました。そんなわけで参加の場が考え方の修正となる

態度変容をもたらす役割を演じてもらう場をつくる、それによって動機付けしていくことが大事ということを申し上げたいと思います。

最後に、問題の発見が安全な行動をもたらすという事をご紹介したいと思います。実は人間の行動というのは、今までお話ししたように、人から注意されたり、人から命令されたり、アドバイスだけでは人間の行動はもたらされないんですね。人間の行動、特に行為は、自分が自発的にあることをしようと思ってする行動のことを行為といいます。運転をする行動も道を歩く行動も全部行為です。人が歩こうと思って歩く、運転しようと思って運転する。そういう行為というのはどうやって起こるかというと、必ず問題発見をしてもらうことがないと行為は起こらないんです。例えばなぜ食事をするんですか？それはお腹が空いたからですね。ああ、お腹が空いたなと問題発見をして、そして発見した問題を解決するために食事をするという行動が起こるんです。シャワーを浴びる。なぜシャワーを浴びるんですか。１日仕事をして疲れたなという問題発見をする。あるいは汗をかいたなという問題発見をする。そういう問題発見をして、その発見した問題を解決するためにシャワーを浴びるという行為が実は起こってくる訳ですね。

だから、ある行動をしてもらうには、問題発見をしてもらわなければ実は行動されません。ただ、発見したらすぐ解決の行動をするかというと、その間にもう１つあるんですね。問題形成というプロセスがあるんです。さっきのシャワーの例で言いますと、１日仕事をして疲れたなと思ったとします。その次の段階はこの疲れを解決する、この発見した問題を解決するにはどんな方法があるかな、これを頭の中に自分の体験や人の話、人の忠告も入れていくつもの方法を頭の中で考える。シャワーを浴びるのも１つの方法ですね。お風呂を沸かして、お湯につかって疲れを取るという方法もありますね。あるいは、私はしょっちゅうやりますけど、お酒を飲むという方法もありますね。あるいはお茶を飲む、テレビを観る、ベッドに入ってすぐ寝る。沢山あるでしょう、自分が疲れたなと思った時に解決する方法は。その沢山の方法を問題形成という過程で頭にまず浮かべるわけです。問題形成の後半は、その頭に浮かべた１つ１つの方法について、それをやるのに自分がどのくらい苦労するか。つまり、マイナス、支出の部分がどのくらいあるか。それから、それをやったことによってどのくらい効果があるか。

今度はプラスの部分です。そのプラスマイナスを１つ１つについて量りにかけていくんです。シャワーの場合、確かにシャワーを浴びるには多少のお湯も必要ですが、簡単に浴びられますね。ですから夏はシャワーで当然疲れを取ります。でも、冬になったらシャワーはマイナスの要素が大きいですね。風邪を引くかもしれない。だから、時間がかかって

もやはりお風呂にしようか。そういうふうに場面場面で自分がどのくらい損失をするか、どのくらいで効果が上がるか、発見した問題が解決出来るか、こうやって１つ１つ差引残高を計算して行くんです。その中で一番効果的だと思う行動が人間の行動になって表れるわけです。

だから、人間の行動というのは問題発見、問題形成、そして問題解決。問題解決が人間の行為というものになります。そういうふうにして進んで行くのですね。シャワーを浴びてもらいたいと仮に皆さんが思った時、今までは、あなたシャワーを浴びたら気持ちが良いよとか、シャワーを浴びなさいとかで上から指示、命令、忠告、注意をして浴びてもらっていたんですね。でも、もっと良い方法は問題発見が結果、自発的にその行動を招く。我々はそのことを勉強しました。シャワーを浴びなさい、シャワー浴びたら気持ちが良いよというよりも、あなた側に来たら体臭がきつくて臭うよと。これによって本人が問題発見をします。本人は、あっそうか、人に不快な思いをさせているんだ、じゃ、シャワーを浴びようと自発的にシャワーを浴びて行くわけですね。だから、その相手にどういうふうに問題発見してもらうか非常に大事です。

例えばお年寄りは歩行速度が遅くなるから、信号が青でも途中で赤になって事故に遭うから、次の青まで待ちましょうと指導をしますね。でも、そういう正解を与えれば高齢者は皆守ってくれると思っていますが、実はそうではないんです。そこには問題発見の場がないんです。冒頭でお話ししたように、10 秒で渡れる所がまだ５秒で渡れると思っています。そういうお年寄りばかりなんです。だから信号が青でも一度待ちましょうと言われても、それは隣の人の話で、自分の話ではないと思ってみんな聞いています。隣の人もまたそう思って聞いています。なので、どんなに正解を与えても、大事なのは、あなた 10 秒のつもりでいるけど、実際は、５秒で渡れないんだ、10 秒かかるんだ、そういう問題発見をしてもらう場を作って、ああ、やっぱり危ないんだ、青ですぐ渡るということは危険なんだなと思ってもらわなくてはいけない訳です。問題発見する場を作る、これが指導の非常に大事なポイントです。

最後になりますが、私が提案させていただいたヒヤリ地図づくりの話をします。これは母の会の皆さんにお手伝いいただきやっています。世代間交流の交通安全教育、あるいは最近自動車工業会で、私がリーダーをしていますいきいき運転講座、リーダーを呼んで来なくても自分たちだけで自発的に交通安全の勉強が出来る提案です。３つの提案、ヒヤリ地図、世代間交流、そしていきいき運転講座、これの基になったネイバーフッド・ウォッチという制度のことを最後にお話しします。

ネイバーフッド・ウォッチというのは、アメリカのアラバマ州のタスカルーサという町にアラバマ州立大学という大学があります。これは私が以前定年までいました千葉大学と姉妹校を結んでいた関係もあり、タスカルーサの町に１週間ぐらい滞在しました。南部の本当に田舎町ですけども、どんな交通安全教育をしているか勉強に行ったことがあるんです。その時、私がこのネイバーフッド・ウォッチという制度を体験しました。これが実は参加・体験型のヒヤリ地図づくりや世代間交流、いきいき運転講座の基になりました。私はそれに啓発されて、それこそ目からうろこで、非常に大変な収穫だったんです。

ネイバーフッド・ウォッチというのは、タスカルーサの町の婦人警察官の方が幼稚園や小学校低学年の小さいお子さんたちに、ボランティアの素晴らしさを教育しようとして表面上出来上がった制度です。小さいお子さん３、４人で１チームを作って、１人住まいや老夫婦２人で住んでいるお年寄りのお宅を訪問する。そうすると、あらかじめ婦人警察官が「子供たちにボランティアの体験をさせて、ボランティアをやって気持ち良かったという体験をさせたい。それが子供たちのボランティア精神を養うことになるので、子供たちが週に１回か２回訪ねてくるので、訪ねてきたら部屋の中の植木鉢の場所をちょっと動かしてもらうとか、簡単な仕事を頼んだり、あるいはお茶を飲みながらいろんな世間話をしてもらう。いずれにしても子供たちにボランティアをやって気持ち良かったなという体験をさせたいので、そのご協力をお願いしたい。」と言ってお願いに行くわけです。「ああ、それなら良いことだし、家にいて出来るから協力しますよ。」と言ってくれますね。「子供たちも随分勉強になると思いますので、是非よろしくお願いします。ただ、私たち１つ心配なことがあるんです。それは、子供たちがお宅へ訪問した帰り道に交通事故に遭ってしまったら大変なことになるので、申し訳ないけど、子供たちが来たら、今日、信号はどうだった？とか、ちゃんと左右をみて道路を渡った？とか言って交通安全の勉強を子供たちにしていただけると、事故を防ぐ大変大事な効果があると思うので指導をしていただけますか。」と。「ああ、本当だね。うちへ来る時に事故に遭っては大変だものね。やりますよ。」「はい、本当に有難いです。そうやって、是非ご協力ください。ただ、もしかしたら皆さんご存じの交通ルールは昔のルールで間違っているかもしれない。それだと大変なので、せっかく協力していただくので、ここに大変易しく書いた交通のルールブックがあります。これをあらかじめ読んでおいていただき、子供たちに交通の勉強を指導していただけますか。」と。

良いですか皆さん。目的は子供の教育もありますけども、本当はお年寄りにルールブックを読んでもらうことなんです。お年寄りを集め、これがルールブックです、勉強してお

いてくださいねと説明しても駄目なんです。実はお年寄りに子供に交通ルールを教育するという役割を与える。そういう役割を演じてもらう中でお年寄りを動機付ける。３世代の交流もそうですね。参加させていただくと、お年寄りが一生懸命お子さんたちのために役を演じる。役を演じれば、今度自分が気を付けようと思うんですね。

私は、最後に日本の有名なことわざ、「情けは人のためならず」をご紹介します。情けをかける、人のために何かするということは、相手のためにもなりますけども、実は一番有効なのは自分のためなんです。ですから、ここにいらっしゃるボランティアの方々が地域社会の方に色々ご指導いただく、それはすごい大事なことだし、尊敬をしています。でも、本当はボランティアをするということは自分のためにもなることなんだ、自分が役割を演じることによって自分が動機付けられるということがあるんだ、ということをご理解いただければと思っています。どうもありがとうございました。

■グループ討議の結果

１班

討議テーマ	子供に対する交通安全活動・課題対応
活動状況	子供の実践 ・小学３年生への自転車教室　年３回（３校） ・各小学校ごとにヒヤリマップ作成。目立つ所に張り出して注意してもらう 母親の参加（意識高揚） ・母親による安全ポスター作り ・母親に対する自転車講習会 母の会等の活動 ・交通安全マスコット作り　新１年生への贈呈 ・交通安全カルタ　各幼・保育園に配りゲームを通じて学ぶ
課題の抽出	・安全教育が日常生活に定着しない ・子供自身の参加型教育の場のチャンスが少ない ・全員の参加が少ない ・学校の関心が薄い
対応・ 解決策	・園と保護者との協力が必要と訴える ・粘り強く、定期的に働き続ける ・園と学校の総会の時に、交通指導のアピールをする場を設ける

２班

討議テーマ	高齢者に対する交通安全活動における課題と対応
問題点	横断時の問題点 ・車は自分を見ていてくれるから大丈夫 ・車が遠くに見えるので大丈夫だ 身体機能の低下 ・信号のある場所まで歩くのが面倒くさい ・足腰が弱くなった 自転車のルール ・自転車を利用していてもルールが分かっていない ・足が悪いので自転車が離せない 高齢者の交流 ・一人暮らしの老人が多く、話し相手になってやりたい ・引っ込みじあんの高齢者をいかに引き出すか 高齢者の性格 ・何に対しても、注意しても聞き入れてくれない
対応・ 解決策	・横断時の危険や身体機能の低下などには、参加・体験型のプログラムを取り入れ、自覚させて指導する。 ・高齢者の交流・性格については、交流を通して参加させることをまず一歩として行っていく。

３班

討議テーマ	自転車の交通安全活動における課題と対応
課題	・大人でも良く分かっていない自転車のルール ・歩道通行時、歩行者が歩くべき場所を教えることも必要ではないか ・道路の整備がされていない ・教材の不足 ・幼児への自転車教育は必要か ・幼児の保護者への指導のやり方はどうしたらよいか ・シミュレータを使っての実技指導がパターン化
疑問	・ヘルメットは大人も必要か ・自転車に積む荷物の正しい積み方はどうすればいいか ・自転車保険にはどのような種類のものがあるか
対策	・年齢に合わせた指導カリキュラムの作成 ・学校の先生の知識・意識向上 ・歩行者が一番であることの意識付け ・高校の生徒会と一緒に自転車マナーキャンペーン ・自転車の補助がとれたら安全教室に参加することを義務付ける

４班

討議テーマ	交通ボランティア活動の運営における課題と対応
課題	組織の在り方 ・役員として若い人がなって来たが、仕事等の関係で事業・行事に参加しない ・２年ほどやって辞めてしまう人が多い 予算について ・女性部自体の予算がなく、市安協の下で活動している ・活動資金元が毎年変わらずに続けていくことは難しい 県組織として ・決まった役員だけが動いている ・各地域では活動しているが、県全体としてのつながりが希薄 会員の減少 ・会員の高齢化に伴う活動の減少と弱体化 ・一期で役員を交代する慣習が変わらず、継続しない
対応	・以前のように全交母のような組織を作ってほしい ・例年同様の活動は実施出来ず、縮小して実施している

■講評　千葉大学　名誉教授　鈴木　春男

１班から４班までご報告していただき、聞かせていただきまして、それぞれ大変内容の濃いご報告をいただいたと思います。簡単に感想を、その後、全体の講評を述べさせていただきたいと思います。

第１班の子供の事故に関しましては、本当に深く掘り下げていただいていて、大変良いご報告をいただきました。ちょっと１つだけ、特に幼児の場合、縁故者事故というのが結構多いんですね。縁故者事故というのは、つまり、お父さんが自分の奥さんを撥ねちゃうとか、幼稚園とか通園の車が園児の方を撥ねちゃうと。

実は何年か前、交通事故総合分析センターが縁故者事故の調査をやりまして、分析をしたら父親が一番多くて、33%。それから、今申し上げた通学園児、通園バス等が 22%、３番目が母親、その次が母親の友人となっています。

この縁故者事故、特にお母さんの友達が友達のお子さんを撥ねたなんていうのは非常に悲惨なことです。実は被害者の年齢は１歳、２歳が圧倒的に多いです。１歳の方が 38.9%、２歳の方が 33.3%、４歳でも 70%以上になっています。

こういう小さいお子さんというのは、知り合いに寄っていく傾向があるんですね。近づいていく傾向がある。それで事故を起こしてしまう。だから、そういう方々に対する周辺の注意というのも非常に大事なのかなと。横断なんかで撥ねられているということでは、縁故者事故の場合はなくて、大体幼児が立ち止まりの状態を撥ねてしまう、こういうことが結構多かったりします。

運転者の行動では、やっぱり発進する時に一番多い。お子さんが丁度バンパーの下にいて見えなかったとか、これが大体 66.7%、後退のほうが 27.8%。この辺が一般の幼児に対する事故に比べて際立って多い所ですね。この対策ということも、やっぱり特に幼児に対する教育を家庭でやっていただくことが一番大事なんですが、周辺の大人の注意と同時に、お子さんに対する教育というのは大事かなということを感じました。

お子さんも事故に遭わないために反射材を着けていただくというのが非常に大事で、高齢者の反射材はもちろん大事ですが、イギリスの例ですけども、イギリスでは国を挙げて小学生の入学時に反射材を全部に渡すと。2001 年にイギリスの政府が当時の１年生から６年生までの全小学生、当時 600 万人いたそうですが、この子供たち全員に反射材を配布しました。そして、その翌年からは入学してくる生徒たちに反射材。そうすると、2008 年には合計 1,200 万個配布して、５歳から 17 歳の人たちは、全員がとにかく１枚は反射材を持っていると。このことによって子供の事故の 59%が減ったという統計が出ています。

６割近く減った。だから、子供の反射材も結構有効だということ、これは高齢者と並んで大事だと思います。

高齢者に対するご報告を第２班からいただきました。高齢者が反射材を着けていただいていることによって、どのくらい事故が減るかというと、反射材を着けていることで 10 倍ぐらい事故が減るだろうと言われています。高齢者の歩行中の事故は非常に多いですけれども、その半分は反射材を着けるようになれば防げると。

これからの大事なこととして、反射材を着けることの義務化を法律でそろそろ考える時期に来ているのではないかなと個人的には思っています。実はスウェーデンはもう義務化されていまして、義務化することで、反射材を着けていると何となく目立って恥ずかしい、こういう雰囲気があるんですが、法律はなかなか難しい、なかなか一長一短に行かないと思いますけれど、少なくとも県とか町の条例で義務化ということをやっていただく、そういう町が出て、そこが極端に事故が減ったりすると、これが全国に普及していくと。そういう手順があって、最終的には国で反射材着用の義務化というのが一番良いのかなと思っていますが、勇気のある自治体が是非手を挙げていただけると良いなと。そういうことをすることによって、反射材を着けていないと恥ずかしい、そういう状態に多分なるのではないかと思っております。

それから、自転車のことにつきましては、第３班でございますが、昨日、谷田貝先生のお話でかなりもう網羅されていると思います。ご報告の中にあった、お子さんと母親が自転車に乗る場合に、お子さんを先にした方が良いのか、と谷田貝先生はおっしゃいました。でも、やっぱりお子さんが先になることで、もしかしたらお子さんが危険な状況になるということも考えられるので、母親が先の方が良いのではないか、こういうご意見も実はあったというお話です。

全く別の次元のお話ですが、ドイツのケースが圧倒的に多いのは、父親がお休みの日、父親が先頭なんですね。その次をお子さんたち２人とか、母親が最後につくのですね。見事だな、ああいう自転車教育が家庭で出来たら良いなと思います。

４人が１列に並び、先頭の父親が右折する時に、パッと手を上げるんですね。そうすると、２番目の子供、３番目の子供がパッと手を上げて、最後は母親がね。で、母親が何か気が付くと後ろから注意をする。本当はこれが一番理想かなと思っております。出来たら父親の協力も得て、家庭ぐるみで自転車教育をして行くということがあったら素晴らしいなと思っています。

４班は交通ボランティアのご報告で、ぜひ全国組織を復活して欲しいというお話も大変

大事なお話だと思いますが、活動資金のお話とか色々出ました。実はボランティアに関しまして、１つだけトピックスみたいなことでお話しさせていただくと、自動車研究所の大谷先生、この先生が中心になって、つくば市で、ものすごく面白いボランティア活動をしています。

これ、実は「散歩」という名前のボランティア活動なんですけども、どんなことかと言うと、つくば市で朝夕、あるいは昼間散歩される方、もちろんお年寄りも多いんですけど、中には糖尿病なんかの治療のために１日１万歩歩かなくちゃいけない、なんて方もいらっしゃるわけです。若い方も散歩される方が結構多いですけども、その散歩される方に呼び掛けて、「散歩」というワッペンを付けていただくと。そして、子供たちの交通ルールとか、あるいは場合によったら防犯とか防災も含めて、散歩される方が気づいた場合に、子供たちにちょっとした注意をされる。子供たちは散歩のワッペンを付けている方だと、別に変なおじさんやおばさんではないということで、注意する方もスムーズに注意出来ますし、注意された方も安心して注意を受ける。また、散歩しているついでに、この道路はこんな改造をした方が安全のために良いのではないか、そういうことに気が付いたら提案していただくと。こういう形で、ボランティア活動は散歩の標識を付けていただくという市民運動を展開することで広がりを見せて、ボランティアのまさに後継者の方の確保の上でも役立っている。そんなお話をこの間伺いましたので、ちょっとトピックスとしてご紹介させていただきました。

最後に、今回コーディネーターとして全体的な感想を申し上げさせていただきます。

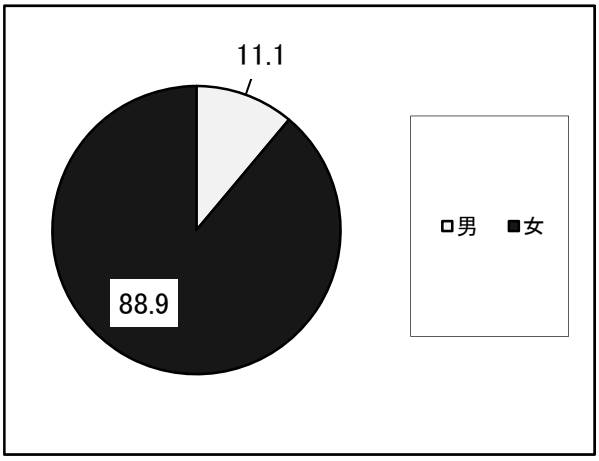
皆さん非常に積極的にご発言され、参加していただいて、とても良かったと思います。また、本日のグループ討議も本当に活発に、皆さん傍観者ではなくて全員がそれこそ立ち上がって、この報告のための用紙をお作りいただいたり、議論いただいている姿を見て、実はこの方法、ＫＪ法に似た方法、大変短い時間にご参加いただいて意見をまとめていくという方法として有効だと思いますので、是非皆さん方もこれからお使いいただける余地もあるのではと思っています。

ただ、本来のＫＪ法の場合は最低でも１泊２日ぐらいかかりますので、今日のような方法を取っていただくと、皆さんが参加してやっていただけるということで、非常に良いんじゃないかなと思って、見させていただきました。

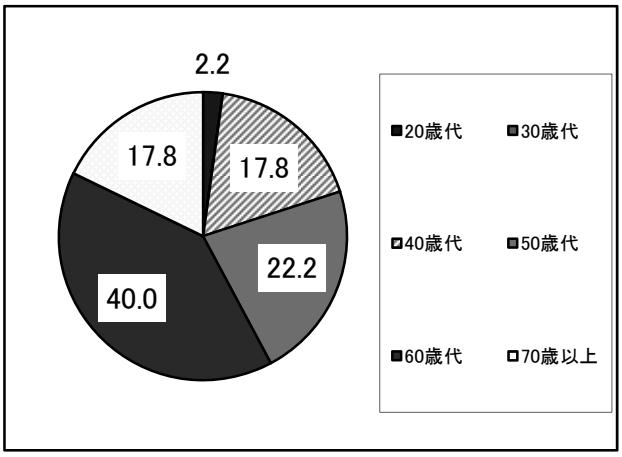
私がいつも申し上げるのは、何回も申し上げていますけれども、「情けは人のためならず」と。これは非常に大事なことで、参加し役割を演じていただく場を作ることによって相手を動機づけていく、これが一番大事だというように考えております。

３．アンケート集計結果

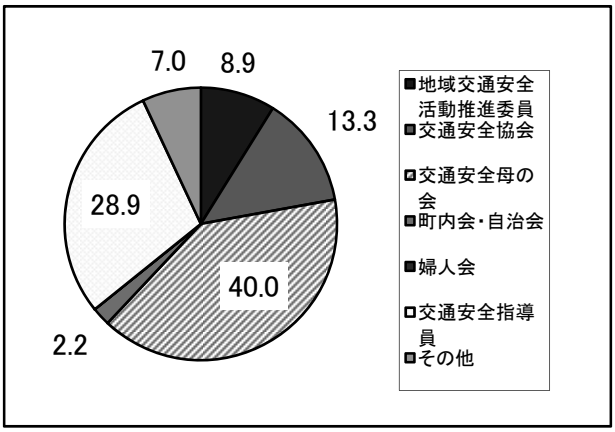
１．性別



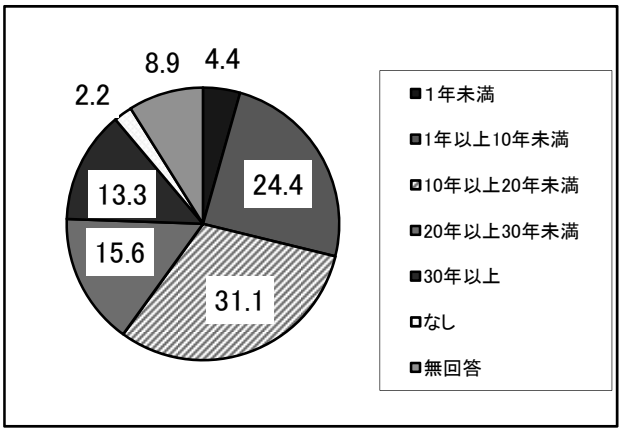
２．年齢



３．所属団体

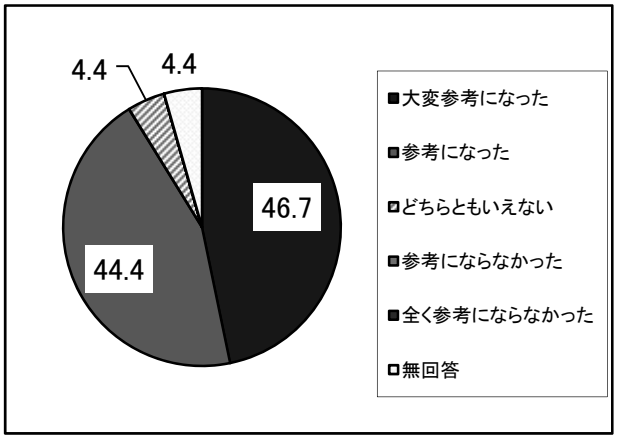


４．活動年数

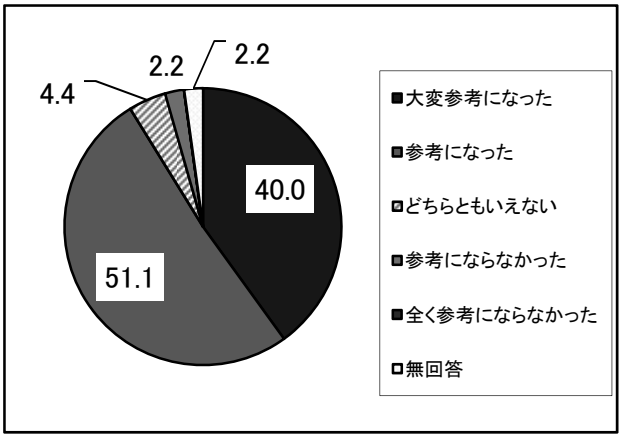


５．評価

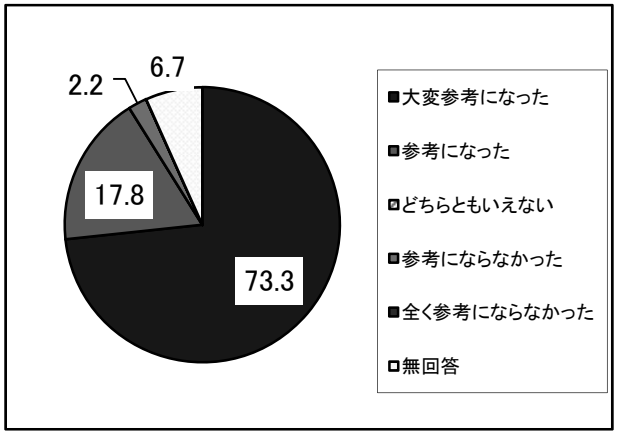
［講演　講師：谷田貝一男先生］



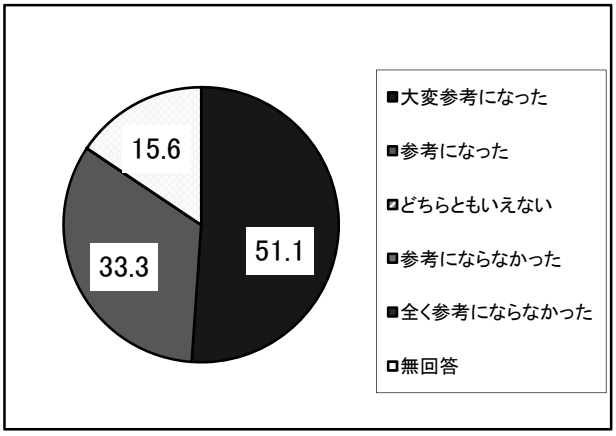
［活動事例発表］



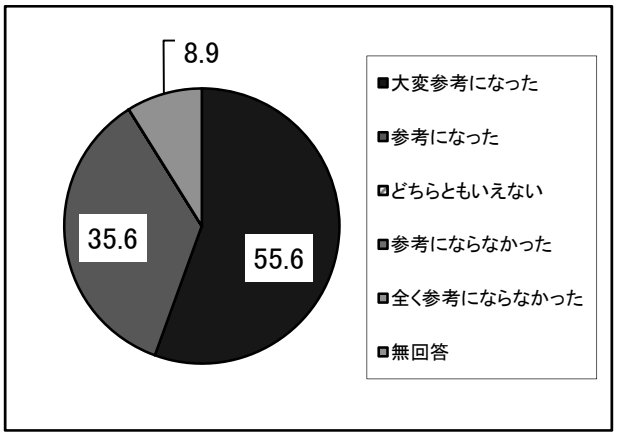
［講演　講師：鈴木春男先生］



［グループ討議］



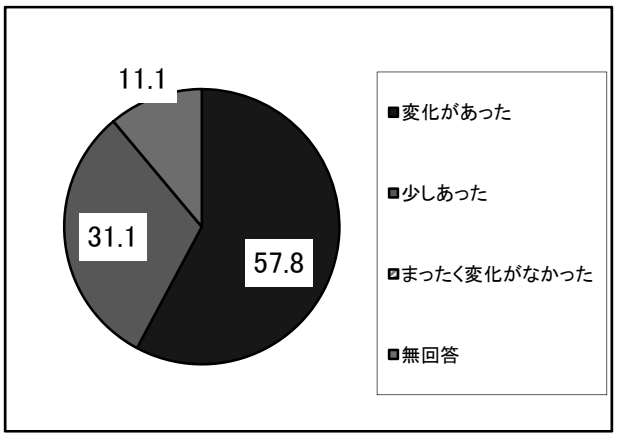
［総合評価］（講習会全体として）



６．今回の内容以外で学びたかったこと（取り上げて欲しいテーマや内容）

・自転車の保険が入っていれば、今後の活動に活かせたのでは。
・加害者になった方の実話
・交通ボランティアとしての交通安全啓発の方法、手法を専門的な立場から具体的に教えていただきたい。
・幼児用教材、指導方法についての講演、実技

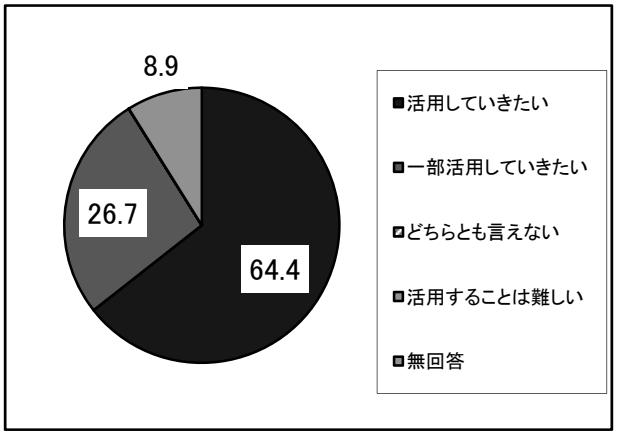
７. 講習会参加による意識の変化



７－1　変化があった場合はその内容

・地域によって色んな活動があり、大いに活動に使っていきたいと思います。
・日頃熱心に活動しておられる皆さんのお話を伺い、大変参考になった。自分自身の交通安全に対する意識の向上につながったと思う。
・多くの活動事例や講師のお話から、まだまだ取り入れるべき活動が見えてきた。
・先生方の講演を聞いて、改めて注意しなければいけないことが多くあることに気付かされた。
・地元に持ち帰り、今後の活動に役立てていきたいと思います。
・今までに目を向けていなかったことで、私たちが出来る活動があること。
・日頃から交通安全に心掛けていますが、他県の皆様の活動報告を聞き、やれることがまだまだ一杯あると思いました。
・自転車と軽く思っていましたが、重要なことを改めて考えさせられました。
・各県、各市町村とも、熱意を持ってボランティア活動を行っていることに感動いたしました。悩みは同じですが、共に頑張っていこうと思います。

８. 今回学んだ内容を今後の交通安全活動に活用するか。



８－１【初めての参加者に対して】 どのように生かしていきたいか。

・自分たちの地域に適したものを取り入れてみたい。
・小学生の自転車点検の時、乗り方、止まり方、足の位置等、新しい項目を作っていきたい。また、左側通行を必ず守らせること、守ることの大切さを痛感した。このことも、今後活かして行きたい。
・鈴木先生の話し方がとても分かりやすく参考になりました。今後、高齢者交通安全教室に活用させていただきます。
・啓発活動等、具体的な取り組みに取り入れていきたいと思いました。
・今日の内容を参考に、母親の立場から見た交通安全活をして行きたい。

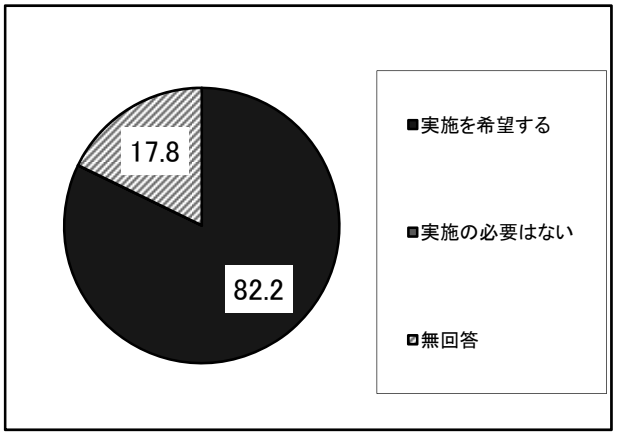
８－２【２回目以上の参加者に対して】 どのように活用してきたか。

・平素の街頭指導や研修会等で、学んだことを活かして指導（声掛け）している。
・交流会を持ち、意見交換して参考にしている。
・いきいき運転講座を活用させてもらっています。たいへん役に立っています。
・元気の続く限り、皆様とボランティア活動を続けたいと思っております。

８－３【２回目以上の参加者に対して】活用のきっかけとなった、過去の講義名や内容。

・発達段階に応じた交通安全意識の高め方。楽しい遊びを通しての交通安全意識の高め方（遊びの例）。高齢者の事故原因など。

９. 来年度の開催について



１０．その他の意見・要望

・交通指導員の交通安全教室で活用している教材等の事例発表がお聞きしたかった。
・今回参加して、本当に皆さんの熱意が伝わりました。
・グループ討議は大変面白く、意見も多く出て良かったが、まとめなど時間が足りなかった。もっと話を充実するために、もう少し時間があるとありがたい。
・発表された方以外の他の地域の方々の事例ももっと知りたかったです。

４．記録写真

開会挨拶（内閣府　金子調査官）

講演　谷田貝一男先生

活動事例発表

講演　鈴木春男先生

グループ討議

グループ討議　結果発表